

地質学セミナー

日時: 5月 30日 (水)

17時～

場所: 総合研究棟 B 棟 110 教室

熊本県秩父帯に分布する中九州層群 (新称) について

発表者① 地圏変遷科学分野 三宅由洋

九州中軸部には中央構造線に相当するとされる臼杵-八代構造線が存在する。これを挟んだ北側の領家帯と南側の秩父帯には白亜系堆積物が広く分布しており、これらの堆積物からは淡水-公海の様々な堆積環境を示す二枚貝化石群集が産出する。田代・池田 (1987) は、南側の秩父帯に分布する下部白亜系堆積物を調べた結果、四国に分布する物部川層群に相当するものとは岩相・化石相ともに大きく異なる八代層と袈裟堂層を、新たに先外和泉層群として定義した。

本研究では、物部川層群と岩相・層序・化石相が異なっている黒崎層、川口層、八竜山層、袈裟堂層、今泉川層、八代層を中九州層群として新称する。また、熊本県八代地域の下部白亜系の岩相および二枚貝フォナの特徴を明らかにし、中九州層群の地質学的意義についてまとめることを目的としている。

調査結果はルートマップにまとめ、産出化石を産地ごとに整理した。さらに、本地域に分布する中九州層群の地質図・断面図・ルートごとの柱状図・模式柱状図および海水準変動曲線を作成した。これらを用いて、①調査地域の中九州層群 (川口層・八竜山層・袈裟堂層・今泉川層) の層序関係、②物部川層群相当層と中九州層群との相違点について議論している。

時代	研究史	熊本・鹿島 (1967)	熊本 (1982)	田代・池田 (1987)	本研究
Turonian					
Cenomanian					
Albian		八代層	宮城層	八代層	八代層
Aptian		今泉川層	今泉川層	今泉川層	今泉川層
Barremian		八竜山層	八竜山層	八竜山層	八竜山層
Maestrichtian		川口層	川口層	川口層	川口層
Valanginian					
Berriasian					

Fig. 1 八代地域下部白亜系の研究史

次回 6月6日 (水) 17時より
発表者: 笠原天人 (地球変動科学)
岩見崇弘 (生物圏変遷科学)

①では、八代地域の袈裟堂層の分布が西側でほとんど見られなくなることについて議論している。これは、同時異相である八竜山層と袈裟堂層が本地域で漸移しているためだと考えられる。また、袈裟堂層に整合関係で堆積している上位の今泉川層基底部層の礫岩が堆積する際に、その礫によって下位の袈裟堂層が削剥された可能性もある。

②では、さらに岩相・層序、産出化石相および海水準変動の3つの視点より検討している。八代地域の物部川層群相当層は基盤に不整合であるのに対し、中九州層群は基盤と断層関係で接していた。これに加え、八代層と御所浦層群の岩相と産出化石に共通種がみられることから、中九州層群は本来秩父帯ではなく領家帯に属していたものであると考えられる。

今後は、本調査地以外の物部川層群相当層と中九州層群相当層、例えば関東の山中地溝帯に分布する白亜系や東北の宮古層群と比較を行い、岩相・層序・化石相および海水準変動について関連があるか調べるのが課題である。

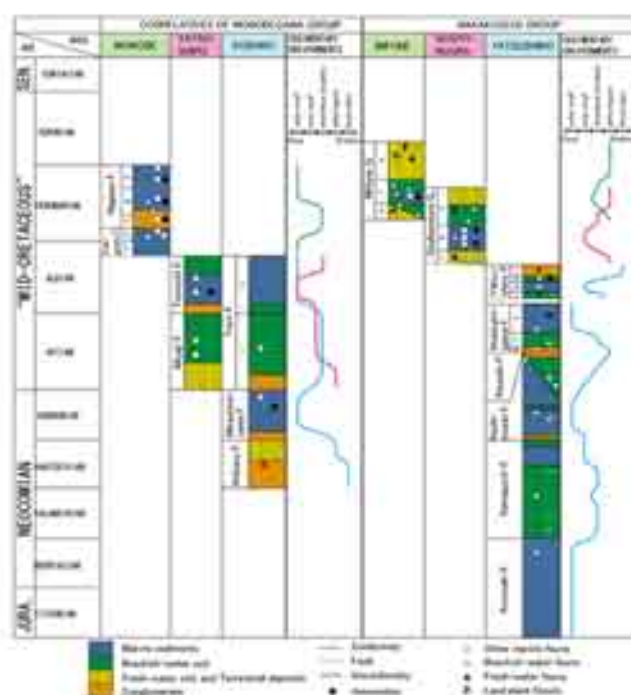


Fig. 2 八代山地白亜系の岩相と海水準変動